



西中の風

～継続と徹底～

伊丹市立西中学校長

大西 規之

今年の目標は決めましたか？

新しい年、そして3学期が始まりました。「1年の計は元旦に有り」とよく言われますが、正月に今年1年頑張る目標を立てましたか。どのような目標を立てたか、どのような気持ちで目標達成に臨むかが大切だと思います。2学期の終業式と3学期の始業式で私が話したことを載せたいと思います。

(1) 2学期終業式

皆さん、おはようございます。いよいよ明日から冬休みです。コロナ禍の影響で今年の冬休みは8日間。昨年は13日でしたから5日も少ない冬休みです。1学期と2学期の区切りが無く、たいへん長い2学期でした。そして、例年ある行事、体育大会や文化祭も無く、7校時授業も10月まで続き、勉強ばかりしているような学校生活でした。しかし、そのような中でもみなさんは文句一つ言わず、肅々と学校生活を送っていました。そのような皆さんを見て「すごいな」といつも感心していました。このような中で行われた代替行事。全体的なものでは、ダンス発表会や文化交流会などがありました。私にはいつも各学年の学年だよりが届きます。その中で特に2年生の感想が目にとまりましたので紹介したいと思います。

まずはダンス発表会について、「ダンスの振り付けがオリジナルと思えないほどクオリティが高く、とても驚きでした。さすが3年生だと尊敬するのと、こういう3年生になりたいと思いました。自分が3年生になったとき、同じように楽しく踊りたいです」。

次に、文化交流会については、「全学年で協力し合って1つの歌を歌ったり、他学年に自分たちの歌を聞いてもらったり、聞いたりして、下の学年にはアドバイスをあげたり、上の学年からはいろいろとすごさを実感させられたりした時間でした」。

これらの感想からわかることは、「3年生がすごい」ということです。また、「こういう3年生になりたい」ということです。これが伝統だと思います。すばらしいことが引き継がれていく伝統だと思います。学校がよくなるか悪くなるかは最上級生、つまり3年生次第だと思います。3年生の行いを常に下級生たちは見本とします。2年生に「すごい」と思わせる3年生はさすがだと思いました。

また、そのような視点で他学年を見ることが出来る2年生もすごいと思いました。拍手を送りたいと思います。コロナ禍でいろいろな障害がありますが、来年も今年以上に素晴らしい学校になるよう各学年日々精進してください。

最後に、門松についてお知らせしておきます。登校するときに気づいている人も多いと思いますが、19日の土曜日に、稲野小学校地区自治協議会の協力を得て、現・前・元PTA会長をはじめ執行部の皆さんと野球部で門松をつくっていただき校門に飾っていただきました。ありがとうございました。門松とは、その年の皆さんの健康や勉強がうまくいくことを約束してくれるすごい神様がよりつくものことです。門松にあやかって、来年1年が素晴らしい年になるように、皆さんも精一杯努力してほしいものです。

コロナ禍で「年末年始は静かに過ごす」とか「年末年始はステイホーム」と言われますが、まさしく「自粛」しないとイケません。視点を変えると、例年とは違い、家で手伝いや勉強、読書などに集中しやすい環境になるかもしれません。ポジティブに考えると、3年生にとっては周りが自粛しているわけですから、誘惑も少なく受験勉強に励みやすいかもしれません。最後の追い込みをかけてください。

また、規則正しい生活を保ちながら安全と健康に気をつけて過ごしてほしいと思います。

さあ、来る年が皆さんにとっていい年になりますように。3学期の始業式、1月6日に元気な顔を見せてください。

(2) 3学期始業式

みなさん、おはようございます。あっという間に正月が過ぎ、8日間の冬休みも終わってしまいました。先生のところには、冬休みに新型コロナウイルス関係の情報や大きな事件、事故に関する報告がありませんでした。学校に、元気にみなさんがそろえることができたことをたいへんうれしく思います。部活動も停止になった日もあり、少しは家族団らん、ゆっくりできたのではないのでしょうか。しかし、3年生は感染症対策をしながら、受験に向け勉強をがんばり、ゆっくりできなかった人も多かったのではないのでしょうか。学習会も2日間ありました。3年生の各教室にはたくさんの方が勉強に来ていました。1月は「いく」、2月は「にげる」、3月は「さる」と言われ、3学期は

あっという間に過ぎていきます。体調を整え、ベストな状態で受験を迎えられるようにしてください。

今年は「丑年」です。牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたようです。

この1年、みなさんも丑のように、将来の成功につながるよう、黙々と目の前の自分の勉強や仕事をこなすよう心がけてください。

さて、日本やアメリカでプロ野球選手として活躍したイチロー選手の話をしてします。まず、イチロー選手が小学校6年生の時に書いた作文を紹介します。「僕の夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍するためには、練習が必要です。僕は3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは、半年ぐらいいやっていたんですが、3年の時から今までは、365日中360日は激しい練習をしています。だから、1週間中で友達と遊べる時間は、5～6時間です。そんなに練習をやっているから、必ずプロ野球選手になれると思います。そして、中学、高校と活躍して、高校を卒業してからプロに入団するつもりです。とにかく、いちばんの大きな夢は、プロ野球の選手になることです」。イチローは夢の実現に努力を惜しまなかった。鈴木一郎選手が、世界のイチロー選手になったのは、目標を掲げ、夢を掲げて、ひたすらその目標、その夢の実現に努力を惜しまなかったからです。夢があり、目標があり、だからこそ、今、なにをすべきかがわかる。日々を夢や目標の実現のために厳しい、苦しい練習に打ち込むことができたのだと思います。日々充実して、やりがいを持って過ごすことができたのではないのでしょうか。

今年を充実して過ごしたい、実のあるものにしたいと思うならば、「1年の計は元旦にあり」という言葉通り、しばし、この1年の計を立てるひとときを持つべきではないかと思います。ぜひみなさんも、1年の始まりに夢や希望を持ってください。

さあ、3学期、いや1年の始まりです。今日からいいスタートを切ってください。これをもちまして、始業式に際しての私からの言葉とします。

日々ホームページ更新中！！

